

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.152

2012/07/17

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

地元の次世代が保全作業

来訪者も広範に・・・

林床整備を行った西浅井中学3年生(12/07/05)

この時代里山の生物多様性の保全はなかなか難しい。何百年もの間、人々が生活の一環として利用することで作られた生態系である。しかし今、里人の生活とは切り離れた状態で森を保全しようとするに最大の問題がある。日々森で薪炭を生産するため、森の再生に合わせたサイクルが出来ていた。今私たちは生活とは切り離された状態で、以前のサイクルを維持しようとしている。そのためには多くの人手が無くては実現できない。森を知り、森に働きかける継続した人材が必要である。しかもこの人材は、遠隔地から出かけてくる者では持続性が望めない。一次産業で言われる『地産地消』ならぬ『地保地活』(地元が保全し、地元で活用)が出来るような体制ができるようになればいいのだが。



高橋先生

7月10日アメリカからの留学生3名が県立大学の高橋先生(本会会員)とミシガン州立大学連合日本センターの関係者が、「日本的な里山自然および自然保護活動の実態について学ぶ」ということで来訪された。留学生の専攻は「環境科学」ということである。森の概要のガイダンス後保全作業の現場を案内した。なかなか積極的な学生(左の矢印の学生)があり、こちらの話にも調子よく対応するので、日本で言う「おべんちゃら」がうまい学生かと思いきや、後日「山門水源の森」でインタープリターをやりたいので是非受け入れて欲しいとセンターの方から依頼があった。さて片言の英語で彼女の目標を達成させてやれるか不安だが受け入れる準備を進めている。

7月12日突然「明日から3日間朝の1時間、森の話と自然観察をしてもらえないか」との電話。東京の成城学園初等学校の5年生が「つづらお」で宿泊研修を実施するのだが、降雨の増水で計画した活動ができないので急だが是非、とのこと。予定を変更して3日間実施しました。引率の先生からは来年からはここに本格的に来ることを考えたいとのこと。



成城学園初等学校の子どもたち(12/07/13)



塩津小「ひびきあい活動」(12/07/07)

4月から実施している「ガイド養成講座」も回を重ね7/14で7回目となりました。7/8には、これから活動がより活発になる昆虫について南氏に、7/14は森氏に講義と現地観察指導をお願いしました。いずれの講座も本会会員にとっては、無限大に感じられる種数であるものを1日や2日で習得できるものではないことは当初からわかりきったことでした。しかし、両講師とも私たちの狙いと持ち合わせる知識を熟知して貰っており、短時間で有意義な指導をして頂きました。終了後「また季節を変えて、指導して貰いたい」の声多数。単に種名を知るということではなく、個々の生物が山門水源の森に生息・分布する意義・その種の隠れたおもしろさ・人間生活への利用等多岐にわたる指導であったから、声は当然のことでもありました。南さん、森さんまた次の機会もよろしくお願いします。



ズメバチ・チャイロスズメバチ(写真での同定なのだが、西日本での確認例が少ないらしい)・ヒメスズメバチで、女王蜂もかなり捕獲できている。こうして見るとスズメバチも多様で、今後トラップのスズメバチの標本を残しておく必要があるようだ。

付属湿地にサクラバハノキ

長年「ハノキ」として疑いを持たなかったが、過日森会員がこれは「サクラバハノキでは?」と確認してもらったところ、紛れもなく「サクラバハノキ」。このハノキは、既に他府県では「絶滅危惧種 類」・「絶滅危惧種 類」になっている所も多く、滋賀県では「準絶滅危惧種」に分類されている。付属湿地のサクラバハノキは、付属湿地造成時に山門集落の放棄田から移植したものである。もともと山門湿原にあったものではないが、準絶滅危惧種ということもありこのまま残しておくことにする。山門湿原には、ハノキとケヤマハノキが分布している。こうして見るとまだまだわかっていないことが多い。改めて総合調査が必要な段階に至っている。

地元塩津小5年生の「ひびきあい活動」で子どもたちと保護者が雨の中、森の散策をされました。地元といいながら保護者のみなさんも初めてという方が殆ど、『地保地活』にはほど遠い状態。本会の活動が更に地元に根付くようにと考えさせられました。

ガイド養成講座回を重ねる



昆虫講習(講師:南尊演氏)(12/07/08)



植物講習(講師:森小夜子氏)(12/07/14)

スズメバチ捕獲作戦

毎年訪問者が多い秋、もっとも注意を払わねばならないのがスズメバチである。生物多様性の保全を言いつつも、訪問者が被害に遭うことは絶対に避けなければならず、今年も捕獲用のトラップを設置している。楽舎 沢道 南部湿原・四季の森・尾根道の範囲で24地点に設置している。このうちに最も多く入ったトラップが左の15頭である。これまでのトラップに入っていたスズメバチは、オオスズメバチ・キロスズメバチ・コガタスズメバチ・クロス

